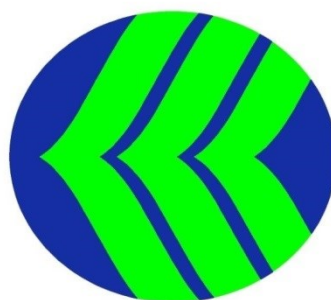


# 平成 2 9 年度施政方針



沖縄県久米島町

## 平成 29 年度 施政方針

はじめに

平成 29 年 3 月定例議会の開会にあたり、町政運営に対する私の所信を申し上げ、議員の皆様並びに町民の皆様のご理解とご協力を賜りたいと存じます。

私は多くの町民のご信託を賜り、久米島町長に就任しましてからまもなく、3 年を終わろうとしています。

町民からの切実な声に真摯に向き合い、直実に行政運営を進めてまいりましたが今年度も第 2 次総合計画の将来像「夢つむぐ島」・島人みんなで織り上げる未来の実現に向け、様々な施策をスピード感を持って進めて参ります。

さて、国の経済状況は、長く続いたデフレからの脱却を目指し、経済の再生を最優先課題と位置づけ、「一億総活躍社会」の実現を目指し、大胆な金融施策、機動的な財政対策、民間投資を喚起する成長戦略を柱とする経済財政政策を推進した結果、雇用・所得環境の改善傾向が続いていますが、その効果が地方に及んでいるかと言えば、その実感は薄く、地方の経済環境は厳しい状況であります。国はさらに「新・三本の矢」を放ち、少子高齢化という構造問題に真正面から立ち向かい、成長と分配の好循環の実現に向け、取り組んでいます。

沖縄の経済については、外国人観光客の急増、沖縄へ立地した IT 関連企業数の順調な推移、那覇空港の国際貨物取扱量の飛躍的な増加等、沖縄振興の成果が実感できる形で現れております。23 年ぶりに失業率 3% 台を達成するなど雇用情勢も確実に改善しております。

2017 年は、こうした沖縄振興の良好な流れをより一層加速させるため、「沖縄 21 世紀ビジョン基本計画」の後期期間のスタートとなる重要な年となります。那覇空港の整備促進をはじめ、空港・港湾の物流強化、増大するクルーズ船需要に対応する港湾整備や、観光振興に資する大型 MICE 施設等のインフラ整備、全ての人々が安心して豊かに暮らす事が出来る社会の実現に向けて、地域医療の充実、子どもの貧困、待機児童への対応など、医療・福祉の充実にも力を入れています。

また、沖縄全体の底上げを図るためには、県としては離島の振興が不可欠であるとし、「離島力の向上」を図り、「ダイヤモンドのように輝く離島の力」を発揮することにより、沖縄全体のソフトパワーで沖縄の未来を築いていく必要があるとしています。

このような状況下、本町においては、海洋深層水などの自然資源を活用したまちづくり「久米島モデル」の実現を、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の核となる重要プロジェクトとして位置づけ、29年度も引き続き「国際海洋資源・エネルギー利活用コンソーシアム」と密接に連携しながら各種関連施策を推進して参ります。また、海洋エネルギー推進に関しては、毎年ハワイ郡と交互にワークショップを開催していますが、次世代育成のための高校生教育交流に加えて、本年は産業面の交流を実施して参ります。

これまでの概念にとらわれることなく、柔軟な発想と向上心をもって、その持てる能力を最大限に発揮し、行政運営に力を注いで参ります。

以上の基本的な方針に基づき、平成29年度に実施する施策についてその骨子を申し述べて参ります。

## 1. 総合計画の推進

久米島町第2次総合計画の最大のテーマは人口減少対策です。

急速な人口減少への対応に向け、農林水産業や観光産業の振興をはじめ、新たな産業の創出、子育て環境の充実や若年層の雇用創出など早急な対応が求められており、久米島の豊かな自然、歴史、文化、伝統等を大事にしながら、未来を担う世代を育成していくことが私の使命であると考えております。

昨年6月より、「全ての世代が生き生きと将来にわたり暮らせる島」「人を惹き付ける島」を目指す体制の整備として、移住定住促進窓口「久米島 島ぐらしコンシェルジュ」を設置しました。しごと・住まい・子育てに関する情報の収集・発信や移住相談などを行いながら課題に向き合っています。

本計画の実現に向けて様々な課題に対応していくためには町民・事業者・行政が「ひとつ」になり総力戦で取り組まなくてはなりません。それぞれが「自分ごと」として捉え、既存組織の枠を超え今一步踏み込んだ取組が促進されるよう引き続き推進体制の充実を図ります。

## 2. 産業の振興

### (1) 農業の振興

農業については、農業従事者の高齢化に伴い、担い手不足の問題など経営が大変厳しい状況にあります。現状を打開するためには、国の農業政策である青年就農給付金事業の活用により、担い手育成を積極的に進めて参ります。

また、農地中間管理事業により、担い手に農地集積を進めていくと同時に栽培技術や経営能力の向上など、関係機関との連携強化を図りながら課題解決に取り組んで参ります。

さらに、地域で生産された農林水産物を加工し、付加価値を付けて販売する6次産業化に積極的に取り組み地域の活性化に努めて参ります。

次に個別施策について申し上げます。

さとうきびの振興については、「さとうきび農業機械等リース支援事業」、「さとうきび安定生産対策事業」によりハーベスター及び株出管理作業機械を導入し、刈り取り・肥培管理の機械化を推進します。

さらに「さとうきび優良種苗安定確保事業」により、優良種苗の確保及び農家への普及を図ります。また、町単独事業により、さとうきび振興協議会の支援、干ばつ・灌水対策事業、さとうきび共済掛金助成事業、さとうきび病害虫防除事業等によりさとうきびの振興を図って参ります。

甘しょについては、一昨年、沖縄県知事から拠点産地の認定を受け、生産拡大につながっております。甘しょ加工施設の稼働により、甘しょの更なる生産振興を図るとともに「甘しょ優良種苗普及事業」により優良種苗を確保し、農家への普及と生産拡大を図ります。また、イモゾウムシの早期根絶を目指して薬剤の助成を行って参ります。

花卉の振興につきましては、沖縄県花卉園芸農業協同組合と連携し、生産振興を図って参ります。

また、新たにかぼちやの生産出荷が伸びてきており、今後沖縄県の拠点産地認定に向けて生産者と一緒に取り組んでおりますので、久米島町かぼちや産地協議会を中心に生産振興を図って参ります。

畜産については全国的に肉用牛取引価格の上昇が続き、生産意欲が高まっています。前年度に引き続き沖縄県の「畜産担い手育成事業」により畜舎、草地等の整備を図り、母牛の増頭に取り組むとともに「優良雌牛導入事業」により母牛の増頭及び品質向上に取り組んで参ります。

町単独事業としては「繁殖雌牛共済掛金助成事業」「優良雌牛自家保留支援事業」などにより、引き続き畜産振興に取り組んでまいります。なお、第11回全国和牛能力共進会が9月に宮城県で開催されますので、前回の長崎大会以上の成績を目指し、県とJA及び関係団体と連携しながら、生産者と一体となって取り組んで参ります。

## (2) 水産業の振興

漁業については、農業と並び、島の基幹産業であり、次の施策により漁業振興に取り組んで参ります。

久米島町の水産業は、「久米島町第一次総合計画」に基づき、漁業環境復旧・保全、栽培漁業の推進、漁業生産基盤の整備、島の条件に適合する流通体制の整備、漁業経営者の育成・確保、防災・緊急体制の拡充などを推進してきました。また、「浮漁礁整備事業」により、中層浮漁礁の整備や平成27年度に整備した水産加工処理施設及び海業支援施設により、マグロ及びモズクを中心とした水産物の加工品を生産、販売することで、水産業の振興発展、漁業従事者の経営安定と所得向上を図

ります。さらに、観光産業と連携を強化し、相乗効果を創出していくことで、久米島町の水産業の活性化を図って参ります。

### (3) 商工業の振興

本町の商工業は、経営者の高齢化に伴う事業縮小、また沖縄本島の大型ショッピングセンターへの顧客流出やインターネット通販など社会経済状況が変化する中で商業を取り巻く環境は厳しさを増していることから、久米島商工会と連携を図りながら製造業の活性化や「久米島特産品販路開拓事業」を通して販売拡大に取り組んで参ります。

また、有望な地域資源である海洋深層水の新たな事業展開については、久米島海洋深層水協議会との連携を図りながら海洋深層水関連商品の「ふるさと名物応援宣言」を行い、ブランドの育成・強化を図ってまいります。

久米島紬の振興については、久米島紬事業協同組合と連携しながら、久米島紬の伝統的な技法を継承する後継者の育成をはじめ、国指定重要無形文化財のブランドの維持や消費者ニーズに合った商品開発による販路拡大、販売促進など支援を行って参ります。

### (4) 観光産業の振興

観光は個人のライフスタイルの変化により、画一された団体旅行よりも家族や友人・知人と出かける個人や小グループ化が進み、さらにインターネットの発達により個人の興味、関心にあわせて旅行内容が多用化するなか、ニーズにあった新しい旅行プログラムが求められており、久米島の豊かな自然と伝統文化など多くの優れた観光資源を活かした着地型観光商品の充実・開発による着地型観光の強化をはじめ、修学旅行の誘致など久米島町観光協会の取り組みを支援して参ります。

久米島観光において課題となる知名度不足の解消、誘客の拡大については、テレビやWEB等メディアの積極的な活用により久米島の魅力を全国に発信し、誘客に努めます。

また、野球や陸上競技、その他スポーツ合宿誘致については、久米島町スポーツコンベンション協議会を中心に関係団体と連携を図りながら取り組みます。

久米島町観光振興計画の展開により、平成27年度には観光入込客数10万人を突破しましたが、平成28年度も目標人数を上回ることが見込まれることから、平成29年度においても積極的な観光振興に取り組んで参ります。さらに、久米島観光の将来像を構築することを目的に、観光地域形成促進地域に指定されるイーフ地区及び周辺地域の観光リゾート振興に関する基本計画を策定し、計画的なリゾート地の形成に取り組んで参ります。

### (5) 交通の確保

離島を結ぶ航路、航空路は、住民及び交流人口にとって重要な交通手段であり、物流、観光、産業活動に欠くことのできない大きな役割を果たしています。

特に、航空路線は利用度の高い交通手段となっていることから定期路線の維持・確保及びジェット便の増便等、輸送体制の拡充、利便性の向上について沖縄県や航空会社に求めてまいります。また、那覇－久米島の航空運賃については、交流人口の拡大を図る目的で沖縄県が実施する「球美の島交流促進事業」により那覇発運賃の低減が図られておりますが、引き続き割引の拡充について求めて参ります。

フェリーの往復乗船券における利用期間については、これまでの2週間から1ヶ月への期間延長、さらに沖縄県が行う沖縄離島住民等コスト負担軽減事業における片道運賃の割引適用についても求めて参ります。

町営バスにつきましては、町民の通学・買物・通院など重要な生活交通路線となっており、また、島を訪れる観光客などにとっても欠かせない交通手段として重要な役割を担っており安全運行の維持・確保に努めます。特に、70歳以上の高齢者の町民を対象に運賃無料化を継続し、外出支援を継続して参ります。

## 3. 教育・文化の振興

久米島町の明るい未来をつくるためには、人づくりが最も重要だと考えており、小中学校の学力向上に向けた教育環境整備に積極的に取り組んで参ります。久米島高校の魅力化事業の一つとして、島外からの留学生を受け入れていますが、昨年県内の市町村では初めての町営の久米島町地域支援交流学習センターが完成し、13名の離島留学生を受け入れる事ができました。離島留学生と地元の生徒及び地域との交流を通じて、お互いに刺激し合う環境づくりが可能となりました。

また、社会教育においては「学びの拠点」「読書環境の整備」をめざして、図書館機能を備えた複合型防災・生涯学習機能施設の建設に引き続き取り組みます。

### (1) 学校教育の充実

学校教育に求められるのは、変動の激しい21世紀を力強く、逞しく生き抜く「生きる力」を全ての子ども達に育むことにあります。「生きる力」を育むとは、「知・徳・体」調和のとれた子どもの育成だと考えます。その中でも、教育委員会では、本町の教育の大きな課題である『学力の向上』を基軸として、子ども達一人一人に確かな学力を身に付けさせるような取り組みを推進して参ります。

学力向上の取り組みとして小学校では昨年度も、国語、算数を合わせた総合正答率で、目標である全国平均を上回ることができました。今年

度も、その結果を継続できるような取組を行ってまいります。中学校は国語、数学を合わせた総合正答率で県平均を超えることなどを目標とし、取り組んでまいります。

これらの目標を実現するためにも、全小中学校で具体的で実践的な助言のできる専門家を招聘し、教師の授業力の向上のための研修会を実施します。また、基礎学力向上学習支援員を、今年度も小学校3名、中学校の2校にそれぞれ2名、合計7名配置し、基礎的な学力の定着を図ってまいります。さらに、昨年度2中学校に配布した国語、数学、社会科、理科、英語5教科のデジタル教科書及びタブレットなどのICT機器を積極的に活用し、学力の向上を図ります。

教育活動の中では、人、自然、伝統文化など、地域の豊かな教育資源を活用することにより、久米島の良さを知り、ふるさとに誇りを持てるような子ども達の育成に努めて参ります。

幼稚園においては、仲里幼稚園と清水幼稚園の2園に統廃合され、園児数のバランス格差に起因する保育内容や安全面などに対する課題の解決が図られつつあります。今年度も、安全で充実した保育が実施できるようきめ細かな支援を推進してまいります。また、預かり保育については、仲里幼稚園、清水幼稚園において、これまで通りその充実に努めて参ります。

## (2) 生涯学習の振興

生涯学習の充実を図るため、ヤングフェスティバルや新春書道展、また各種講座・体験活動事業等を展開し、幼児から高齢者に至るまで町民が生き生きと学習活動ができるよう支援して参ります。

また、念願である図書館建設については、町民の「学びの拠点」を念頭に置きつつ、「第2次久米島町総合計画」の策定にあたり町民より寄せられた声を十分反映させた複合・多機能施設としての建設・整備に取り組みます。

さらに、交流事業として、新潟県十日町とのなかさと交流、佐賀市と久米島町の中学生交流、海外ホームステイ事業を継続実施し、児童・生徒の視野を広めるとともに将来の久米島を担う人材育成に向けて取り組んで参ります。

社会体育については、町民の健康・体力増進を図るため、久米島町体育協会などの団体と連携を図りながら町民運動会やふれあい駅伝、水泳教室などの各種体育行事を実施して参ります。また、久米島中体連行事としても実施されている伝統競技の沖縄角力の保存、継承を図るため沖縄角力協会久米島支部と連携を図って参ります。

### (3) 文化の振興

文化振興について、伝統芸能や民族芸能の保存・継承を図るため、久米島町文化協会や久米島町民俗芸能保存会との連携を図りながら充実発展に努めるとともに書道展の開催について引き続き支援して参ります。

文化財及び博物館については、具志川城跡石積・天后宮修復工事、五枝の松・宇根・兼城・南謝門のコバテイシ等の天然記念物樹勢回復事業などを行い保護、活用に取り組んで参ります。博物館については、常設展示を中心に企画展・特別展・講演会・イベントの開催、文化財管理とともに久米島の文化を発信し、行き引き続き運営に傾注して参ります。

また、久米島ホテル館については、環境学習・自然学習の拠点として効果的な利活用を図ります。

### (4) 学校給食

学校給食センターでは、児童・生徒が食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身につけることができるよう、積極的に食育の推進に取り組んでいくとともに「安全・安心・美味しい給食」の提供に努めて参ります。また、地産地消の拡大に向けて関係機関と連携を図りながら、地元産の食材を学校給食に活用できるよう取り組んで参ります。

## 4. 福祉の充実

町民福祉につきましては、保健・医療・福祉サービスの連携による地域福祉の充実を図り、すべての町民が安心して健やかに暮らせる福祉のまちづくりに積極的に取り組んで参ります。

### (1) 母子保健・児童福祉

本町に於いても、子育てに関する様々なニーズも高まっているなかで、安心して子育てができる環境づくりが求められています。子育て支援を強化し少子化に歯止めをかけるには「子ども・子育て新制度」に対応した取り組みが重要となっており体制強化も含めて課題解決に向けた取り組みを実施いたします。

また、待機児童対策として新たに家庭的保育事業を実施すると共に認可保育園の定員見直しによる量的整備を進めながら病児保育の早期実施など保育の質の向上に取り組んで参ります。

新たな試みとして、5歳児発達相談を実施します。3歳児検診以降から幼稚園での就学時健診までの間、それぞれの児童の特性を確認し、支援へつなげる場が現在はありません。そこで「育てにくい・何か気になる」など気づきの場、気づきを深める場として5歳児発達相談を行い、個別相談や発達検査を行うことで療育などの必要な支援につなげていきます。



## (2) 健康づくり

町民の健康状態を改善する取り組みとして実施している健康増進施設「SMA P」（スマップ）を中心に運動習慣の定着を図るため個人はもちろん町内の事業者と連携して内容を充実させ利用者を増やすよう取り組みます。子ども健診の実施及び事後経過観察を学校と連携して対象者を支援し健診異常率の改善を図ります。

また、特定健診の受診率向上の取り組みとしては前年度より実施した特定健診受診率向上対策委員による未受診者への戸別訪問調査の分析を行い、個別受診勧奨を促すことや広報活動などに取り組みます。さらに、難病や特定疾患患者に対する渡航費の助成対象者の範囲を一部妊婦健診、不妊治療患者への拡充も図ります。

## (3) 高齢者福祉

本町でも高齢化率の伸びと共に単身や夫婦のみの高齢者世帯が増加傾向にあり、それに伴い認知症の高齢者も増加してきており、今後も増加が見込まれます。多様化する高齢者のニーズに応えるためにも地域包括ケアシステムの構築に向けた取り組み強化が必要となっており、国の基本指針に基づき介護予防訪問介護、介護予防通所介護の総合事業への移行などの取組みを強化しながら、認知症対策及び在宅医療・介護連携推進事業にも取り組んで参ります。

## (4) 障害者福祉

地域における障害のある人の社会参加の機会の確保や自立した生活が送れるような共生社会の実現が求められています。引き続き「障害者基幹相談支援センター」や「就労継続支援（B型）」事業所との連携により障害者の自立支援に取り組んで参ります。また、本町では障害者に対する居住系サービスの不足から島外でのサービス利用を余儀なくされている状況にある事から、島内でのサービス利用が出来るような支援を図って参ります。

## (5) 生活困窮者対策

生活困窮者等への支援としては困窮者の自立促進を目的に、社会福祉協議会と連携し、就労支援等に取り組んで参ります。

## 5. 環境保全と地域美化

豊かな自然環境の中で、快適で潤いのある活気に満ちた生活を営むことは全町民の願いであります。先人たちから守り継がれてきた久米島町の豊かな自然環境を保全していくために、自然保護思想の普及に努め意識の高揚を図って参ります。

### (1) ゴミ対策

ゴミ排出量の推移は、可燃収集ゴミは減少傾向にあるものの一般廃棄物については、大量生産、大量消費、大量廃棄という浪費型の生活状況にあります。ごみの分け方、出し方に対する住民意識の啓発やリサイクルシステムの構築を積極的に取り組み、ゴミ分別を徹底的に行うよう指導強化して参ります。また、ゴミの不法投棄に関しましては、引き続き不法投棄監視員を配置し監視するとともに、役場、区長会、警察が連携した対応に努めます。

漂着ゴミは、ボランティアによる除去活動を推進するとともに、沖縄県海岸漂着物地域対策推進事業を活用し漂着物を回収、調査、環境教育活動に向けて取り組みます。

### (2) 環境美化・赤土流出対策

住みよい環境づくりのため、引き続きNPO法人と連携し地域住民・ボランティア団体に草花の苗を提供し花づくりに取組やすい環境を構築し緑化推進の意識向上を図ります。町道や公園、観光地施設等については、継続して除草や花木の植栽を行い快適な生活環境の整備に取り組みます。

また、環境保全において大きな問題である赤土流出については、南部保健所など関係機関と連携・協力しながら引き続き監視体制及び防止対策の強化を図って参ります。

## 6. 生活基盤の整備

町民の生活・福祉の向上及び産業振興の基盤となる町道、農道、漁港などの整備を積極的に進めると同時に県で実施しております県道整備、港湾整備、河川整備、かんがい排水及び水質保全事業についても積極的に取り組んで参ります。また、安心して使える水を確保・供給するとともに環境に配慮した上下水道整備を推進して参ります。

### (1) 町道整備

継続事業の久米島縦断線道路改良工事及び大原下線道路改良工事の早期完了に努めてまいります。また、平成28年度に採択されました比嘉2号線の道路改良工事の整備を進めて参ります。

老朽化が進んでいる道路につきましては道路施設老朽化対策点検調査の結果に基づき補修改修の実施に向け取り組むと共に、橋梁等についても点検を実施し長寿命化に努めてまいります。また、未整備道路の整備にも鋭意取り組んで参ります。

## (2) 農業基盤整備

継続事業である農業基盤整備促進事業により、農道及び排水路の生産基盤整備を進めてまいります。また、県営及び団体営水質保全対策事業により、ほ場内の勾配修正・排水路・沈砂地などの整備を推進し、農地からの赤土流出を防止して海岸環境の保全に努めて参ります。今後も農業基盤整備促進事業や水質保全対策事業及びかんがい排水事業の未整備地区の新規採択に向け鋭意取り組んで参ります。

## (3) 漁港の整備

漁港整備については、継続事業である「水産物供給基盤機能保全事業」により老朽化した漁港の補修改修に取り組んで参ります。

また、鳥島・儀間漁港の漁業従事者の安全確保と就労環境の改善を図るための長期計画に向けて取り組んで参ります。

## (4) 上下水道事業

平成26年度に山城浄水場系の儀間ダムが完成し、安心・安全な水をより安定的に供給することが可能となりました。上水道整備基本計画に基づき、施設整備を計画的に進めて参ります。下水道事業については、イーフ・清水浄化センターの機能維持を図るために長寿命化事業を引き続き実施して参ります。さらに未普及対策事業により真我里、銭田、山城、儀間、嘉手苅地区の下水道整備推進を図るとともに接続率の向上に向けて取組み強化を図って参ります。また、上下水道使用料収納率向上についても、引き続き収納取組みの強化を図って参ります。

## (5) 公園の整備

公園整備の充実を図るため、旧久米島中学校運動場にパークゴルフ場、コンビネーション遊具、3オン3バスケットコート、休憩施設、東屋等を整備し家族、親子でも楽しめる公園整備が着工します。

また、だるま山公園、球美の島緑化公園において、クメノサクラ・椿・ツツジ等の花木を植栽し自然的公園造りに取り組み町民の憩いの場づくりに努めて参ります。

## (6) 火葬場、葬祭場、墓地公園の新設

平成29年度は、火葬場、葬祭場の建築に着手します。火葬から告別式までの一連の葬儀を執り行うことが出来る火葬場と葬祭場を併設した施設を整備することにより、安心した生活環境を提供できるものと考えています。

また、墓地公園の整備により墓地の集約化を図り、永代供養型納骨堂の建設整備をする事により墓地の確保、景観の配慮ができるものと考えています。整備の早期実現に向け事業導入に取り組むを行って参ります。

## 7. 情報通信基盤整備

今年1月、平成25年より実施されてきました沖縄県の離島地区情報通信基盤整備推進事業による離島地区の海底ケーブル敷設が完了し、中継伝送路の2ルート化「久米島ループ」が実現しました。中継伝送路のループ化により、耐災害性や機能性が向上し、より安定した通信環境が確保されたことにより、インターネットを活用した遠隔教育の実施など、行政サービスをはじめとする各種産業の情報化が強化されるとともに、IT企業等の誘致も期待されます。今後は沖縄県の超高速ブロードバンド環境整備促進事業により、島内のブロードバンド化を更に進めて参ります。

## 8. 消防・防災

各種災害への予防及び被害の軽減に努め、尊い人命や貴重な財産を守るため日々の訓練を積み重ね消防力の充実・強化に取り組んで参ります。

また、過去の大災害を教訓に、町の防災に関する体制を今一度見直し、災害に強い町づくりを推進して参ります。

### (1) 消防体制強化

複雑多様化する災害に対応するため消防学校等への消防職員、団員の研修訓練を実施するとともに、導入後20年が経過する小型動力ポンプ付水槽車の更新や消防資器材の整備を図ります。

また、今後、東日本大震災を上回る被害が想定される南海トラフ地震等、大規模災害に備え、緊急消防援助隊の登録に向けた取り組みを進めて参ります。

### (2) 救急業務

救急業務につきましては、救命率の向上、傷病者の負担軽減など質の高い救急医療を住民に提供するため、計画的に病院実習や追加講習を実施するとともに新規救急救命士の養成及び救急隊員の技術の向上を図って参ります。

また、応急手当の普及活動においても、過去に住民によるAEDを活用しての応急処置を施した救命効果事例がありました。本年度も引き続き、町民及び事業所などへ応急手当普及啓発を推進して参ります。

### (3) 火災予防

住宅火災による死傷者等を未然に防ぐ目的で設置指導を行っている住宅用火災警報器の適切な維持管理を推進して参ります。また、毎年「火入れ」により発生している林野火災予防の指導を図って参ります。さらに、ホテル、民宿等の防火対象物が安心安全に利用できるよう立入査察を強化し、違反是正の強化を行って参ります。

#### (4) 地域防災

地域の防災力を高めるために、消防団や自主防災組織及び女性消防クラブの育成強化を図り「自分たちの地域は自分たちで守る」ことを基本に、社会環境の変化に即した消防防災体制の充実強化を図りながら災害に強い町づくりに取り組んで参ります。

#### (5) 防災体制の強化

過去の大災害では、情報の収集や発信が災害被害の大きさを左右したと言われるほど、災害時の情報伝達は重要です。防災施設の整備による災害に強い町づくりを推進するとともに、防災情報の収集・発信体制の整備を進めて参ります。

よって、平成29年度予算案の総額は、次のとおりであります。

一般会計	7, 216, 797	千円
国民健康保険特別会計	1, 462, 251	千円
後期高齢者医療特別会計	73, 466	千円
下水道事業特別会計	287, 620	千円
水道事業会計	315, 132	千円
合 計	9, 355, 266	千円

以上、平成29年度の町政運営にあたり、私の所信や予算案などについて、述べて参りました。久米島町第2次総合計画が策定され、「内を満たし」「外からいざなう」ことを基本に掲げ、「人口減少」に歯止めをかけるという課題を解消しながら、そこに暮らす「すべての世代が生き生きと暮らせる島」、「人を惹き付ける島」をしまづくりの目標にし、町民一人一人が「夢つむぐ島」の実現に向け、取り組んで参ります。

活力ある地域をつくるため、町民とともに知恵を出し合い、協力しながら行う協働のまちづくりに一生懸命取り組んで参りますので、町民の皆様と議員各位のご理解、ご協力をお願いして私の施政方針といたします。

平成29年3月8日

久米島町長 大田治雄